



学級規模が授業と学力に与える影響： 全国4県児童生徒調査から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-05-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 須田, 康之, 水野, 考, 藤井, 宣彰, 西本, 裕輝, 高旗, 浩志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00005666

学級規模が授業と学力に与える影響

— 全国4県児童生徒調査から —

須田 康之・水野 考*・藤井 宣彰*・西本 裕輝**・高旗 浩志***

北海道教育大学旭川校教育学教室

*広島大学大学院教育学研究科

**琉球大学大学教育センター

***島根大学教育学部

The Effect of Class Size on Teaching and Academic Achievement

— From a Survey on Fifth Grade and Seventh Grade Students in Four Prefectures in Japan —

SUDA Yasuyuki, MIZUNO Kou *, FUJII Nobuaki *, NISHIMOTO Hiroki **, TAKAHATA Hiroshi ***

Department of Education, Asahikawa Campus, Hokkaido University of Education

*Graduate School of Education, Hiroshima University

**University Education Center, Ryukyu University

***Faculty of Education, Shimane University

概 要

本稿は、学級規模の違いによって、授業や学級の様子、ならびに児童生徒の学力に違いがあるかを明らかにすることを課題とする。北海道、広島県、島根県、沖縄県の小学5年と中学2年の児童生徒を対象とした調査を実施した結果、次の点を確認することができた。第一に、小中学生ともに、学級規模が小さい方が児童生徒が授業に積極的にかかわっていた。第二に、小学校では、学級規模が小さい方が学力偏差値が高く、中学校では「21-25人」学級での学力偏差値が高かった。第三に、教師によるていねいな指導や児童生徒自身の授業態度（授業への集中や向上心）が学力と関わっていることが明らかになった。

1. 本研究の目的と調査の概要

本研究は、学級規模の違いによって、授業や学級の様子、ならびに児童生徒の学力に違いがあるかを明らかにすることを課題としている。本論

では、学級規模と授業や学級の様子との関連、学級規模と児童生徒の学力との関連を検討する。そのうえで、学級規模と授業と学力の三者の関連について吟味することになる。

本研究を遂行するにあたり、2005年11月末に

4つの道県（北海道・広島県・島根県・沖縄県）の公立小中学校又は市町教育委員会に「少人数学習・TTと家庭での学習に関する児童生徒調査」調査票を送付し、小学校5年と中学校2年の児童生徒に配布と回答を依頼した。その後、2006年3月までに郵送により回収した。有効回答数は、児童1664名、生徒1720名、計3384名であった。

児童生徒調査票は、次のような部分から構成されている。

- 1) 自身の性別、担任教師の性別
- 2) 好きな教科
- 3) 授業の理解度
- 4) 望ましい学級規模、教科別の授業の人数
- 5) 学校での学習の状況
- 6) 質問や発表をしない理由
- 7) 授業方法
- 8) 学級風土、教師の児童生徒理解
- 9) TT：授業経験、その形態、感想
- 10) 少人数学習：授業経験、その形態、感想
- 11) クラブ活動：加入状

- 況、活動状況
- 12) 家庭での勉強や生活
- 13) 家族構成
- 14) 家庭での学習
- 15) 家庭での生活
- 16) 小さい頃の家庭教育
- 17) 家庭の文化
- 18) 進学アスピレーション
- 19) 国語のテスト
- 20) 算数・数学のテスト

なお、上記項目19)の国語のテストは、漢字の読み取り、つながりのことば、表現等に関する3問(小5)、2問(中2)からなり、20)の算数・数学のテストは、四則演算、数式・方程式に関する2問からなる。制限時間は、各教科とも10分である。テスト問題は、新学社の作成した学力検査の問題を使用した。

調査を行った学校と児童生徒の属性は表1に示している。学校規模、学級規模とも、おおよそ、幅広く分布している。

表1 調査対象の学校と児童生徒の属性

	N				%				
	学校(学級)		児童生徒		学校(学級)		児童生徒		
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	
全体	58	29	1,664	1,720	66.7	33.3	49.2	50.8	
県	北海道	5	5	268	379	8.6	17.2	16.1	22.0
	広島県	45	18	884	800	77.6	62.1	53.1	46.5
	島根県	4	2	154	65	6.9	6.9	9.3	3.8
	沖縄県	4	4	358	476	6.9	13.8	21.5	27.7
学校規模	1-3学級	8	7	24	161	13.8	24.1	1.4	9.4
	4-6学級	23	8	265	310	39.7	27.6	15.9	18.0
	7-9学級	12	5	261	218	20.7	17.2	15.7	12.7
	10-12学級	1	6	42	622	1.7	20.7	2.5	36.2
	13-15学級	6	2	342	273	10.3	6.9	20.6	15.9
	16-18学級	3	1	239	136	5.2	3.4	14.4	7.9
	19-21学級	2	0	183	0	3.4	0.0	11.0	0.0
22学級以上	3	0	308	0	5.2	0.0	18.5	0.0	
学級規模	12人以下	(20)	(0)	89	0	(24.1)	(0.0)	5.3	0.0
	13-20人	(14)	(4)	208	66	(16.9)	(6.6)	12.5	3.8
	21-25人	(12)	(8)	263	138	(14.5)	(13.1)	15.8	8.0
	26-30人	(17)	(3)	431	79	(20.5)	(4.9)	25.9	4.6
	31-35人	(11)	(29)	352	848	(13.3)	(47.5)	21.2	49.3
36-40人	(9)	(17)	321	589	(10.8)	(27.9)	19.3	34.2	

2. 指導方法

(1) 児童生徒による授業人数に対する認識

表2aと表2bは、児童生徒による「ちょうどよい」とするクラスの人数や各教科の授業人数を示している。表中の数値は、「いまがちょうどよい」と回答した人数と%である。表2aと表2bから

明らかになることは、おおよそ次の三点である。

第一に、クラスの人数については、小学校、中学校ともに、「21-25人」学級で、「いまがちょうどよい」という回答が多いことである。第二に、各教科の授業については、小学校では、「12人以下」の学級で、「いまがちょうどよい」という回答が多いが、中学校では「21-25人」の学級から「31

-35人」学級の範囲に「いまがちょうどよい」という回答が多い。中学生の方が、「ちょうどよいとする」授業人数が、いくらか多い傾向にある。第三に、「いまがちょうどよい」という授業人数

には、教科によってバラツキがある。小中学校ともに、国語の授業はちょうどよいとする回答が多いが、体育はその割合が低い。

表2 a 児童によるクラスの人数や各教科の授業の人数に対する認識（小学校の場合）

小学校	全体	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
1. クラスの人数	1172(70.6)	58(65.2)	141(67.8)	209(79.5)	311(72.5)	252(71.8)	201(62.6)	***
2. 国語の授業	1271(76.6)	71(79.8)	165(79.3)	218(82.9)	317(73.9)	266(76.2)	234(72.9)	***
3. 算数や数学	1151(69.4)	71(79.8)	154(74.0)	181(68.8)	301(70.3)	236(67.4)	208(65.0)	***
4. 社会	1277(77.0)	76(85.4)	166(79.8)	205(77.9)	322(74.9)	272(77.9)	236(73.8)	***
5. 理科	1143(69.1)	63(71.6)	147(70.7)	179(68.1)	304(71.0)	222(64.0)	228(71.3)	***
6. 音楽	1074(65.2)	57(64.8)	128(61.8)	163(62.0)	274(65.1)	238(68.2)	214(66.9)	***
7. 図工や美術	1067(64.9)	60(68.2)	132(63.8)	175(66.8)	280(66.7)	217(62.5)	203(63.2)	***
8. 体育	887(53.9)	37(42.0)	97(46.9)	154(59.0)	231(55.0)	183(52.4)	185(57.6)	***
9. 家庭・技術	1151(70.1)	65(73.9)	151(72.9)	190(72.8)	286(68.4)	234(67.2)	225(70.3)	***

数値は、「いまがちょうどよい」の人数(%)。χ²検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

表2 b 生徒によるクラスの人数や各教科の授業の人数に対する認識（中学校の場合）

中学校	全体	13-12人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
1. クラスの人数	1305(76.4)	43(65.2)	112(81.2)	60(75.9)	667(79.0)	423(72.7)	***
2. 国語の授業	1416(82.8)	54(83.1)	120(87.0)	65(83.3)	714(84.7)	463(79.0)	**
3. 算数や数学	1240(72.6)	42(64.6)	108(78.3)	67(84.8)	624(74.2)	399(68.1)	**
4. 社会	1375(80.4)	47(71.2)	123(89.1)	64(81.0)	691(82.2)	450(76.8)	***
5. 理科	1353(79.1)	53(80.3)	117(84.8)	66(83.5)	678(80.5)	439(74.9)	***
6. 音楽	1340(78.6)	43(67.2)	114(82.6)	64(82.1)	656(78.1)	463(79.1)	***
7. 図工や美術	1368(80.3)	45(70.3)	109(79.0)	68(87.2)	683(81.2)	463(79.4)	***
8. 体育	1189(69.7)	37(57.8)	83(60.1)	52(67.5)	609(72.4)	408(69.7)	***
9. 家庭・技術	1434(84.2)	54(84.4)	121(87.7)	69(88.5)	712(84.9)	478(81.8)	*
10. 英語	1293(75.8)	50(78.1)	117(84.8)	63(80.8)	649(77.2)	414(70.8)	***

数値は、「いまがちょうどよい」の人数(%)。χ²検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

(2) TTと少人数学習の実施率

表3は、TT（ティーム・ティーチング）と少人数学習の経験があると答えた児童生徒の割合を示している。TTについては、小中学校ともに、

7割以上が経験ありとしている。「21-25人」学級での実施率が高い。少人数学習については、中学校の方に経験ありという回答が多く、「26-30人」学級での実施率が高い。

表3 TTと少人数学習の実施率：「受けたことがある」の合計%

	学校種	全体	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
TT	小学校	1209(72.7)	37.1	50.5	92.2	81.9	71.3	66.7	***
	中学校	1478(85.9)	-	86.4	95.7	93.7	91.0	75.2	***
少人数学習	小学校	766(46.0)	0.0	8.2	60.5	65.9	37.8	53.9	***
	中学校	1314(76.4)	-	33.3	87.7	93.7	74.2	79.5	***

(3) 教師による授業中の指導方法

次に、授業中の指導方法について見てみる。表4 aと、表4 bには、小学校と、中学校に分けて、授業中に用いられる指導方法16項目をあげ、「よくある」と「ときどきある」と回答した児童生徒の合計%を高い順に示した。表4 aの小学校においては、学級規模による有意差は、全ての項目においてあるが、傾向性が見いだしにくい。表4 b

の中学校では、学級規模が「13-20人」学級において、「8. 先生が、算数や数学のプリントやドリルをみてる」「14. 先生は宿題をよくみてる」「7. 書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる」で、「ある」と回答した生徒の割合が高い。従って、中学校においては、「13-20」人学級で、比較的ていねいな授業がなされているようである。

表4 a 小学校における学級規模と指導方法：「よくある」と「ときどきある」の合計%

小学校 指導方法	全体	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
15. 朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	1568(94.8)	94.4	91.3	95.8	96.3	92.9	96.5	*
11. 理科の授業で、実験器具を使って生徒が実験する	1553(94.3)	95.5	95.7	95.0	91.3	98.0	92.5	**
14. 先生は、宿題をよくみてる	1414(85.4)	89.9	88.4	90.8	79.7	90.0	80.6	***
10. わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる	1394(84.2)	85.4	89.9	85.9	86.0	84.9	75.7	***
3. グループで話し合い授業	1350(81.7)	65.2	79.5	87.0	79.5	83.1	84.7	***
5. ドリルやプリントの問題をとく授業	1331(80.8)	69.7	84.5	79.3	81.5	87.3	74.6	***
8. 先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てる	1273(77.2)	92.1	88.8	82.1	76.3	76.9	62.7	***
7. 書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	1119(67.9)	80.2	78.6	74.8	67.5	63.9	56.9	***
2. 先生が生徒によく質問し、生徒がよく発表する授業	1099(66.4)	64.0	77.8	73.4	69.4	66.0	50.3	***
9. 算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	1044(63.5)	72.7	79.7	70.8	54.7	70.1	48.9	***
4. 学級全員で話し合う授業	1012(61.4)	68.5	66.8	67.6	63.6	58.0	51.6	***
13. 先生は、宿題をたくさん出す	972(58.8)	59.6	70.4	58.8	54.9	40.7	76.2	***
6. 国語で、1時間に1人が1回以上発表する	825(50.0)	76.4	66.0	47.3	49.2	46.6	39.5	***
12. 理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	806(48.9)	52.8	45.1	42.7	46.5	47.1	60.7	***
16. 放課後に、先生がわからないところを教えてくれる	560(33.8)	39.3	47.8	36.5	41.5	25.3	20.0	***
1. 先生が1時間中説明し、生徒が聞いている授業	484(29.2)	14.6	21.7	27.4	29.6	29.1	38.9	***

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

表4 b 中学校における学級規模と指導方法：「よくある」と「ときどきある」の合計%

中学校 指導方法	全体	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
11. 理科の授業で、実験器具を使って生徒が実験する	1618(94.5)	96.9	92.0	96.2	95.0	93.8	
15. 朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	1556(91.5)	98.5	97.1	94.8	88.8	92.9	***
1. 先生が1時間中説明し、生徒が聞いている授業	735(43.0)	38.5	29.7	42.3	43.8	45.5	*
10. わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる	1279(74.9)	78.5	84.8	82.1	75.4	70.5	**
2. 先生が生徒によく質問し、生徒がよく発表する授業	1270(74.3)	83.1	83.3	73.1	76.1	68.8	***
5. ドリルやプリントの問題をとく授業	1228(72.2)	67.7	70.3	71.4	74.3	70.0	
8. 先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てる	1118(65.5)	86.2	79.7	59.0	67.2	58.3	***
3. グループで話し合い授業	1111(65.2)	84.6	76.1	65.4	63.4	62.9	***
9. 算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	1078(63.4)	66.2	70.1	71.8	64.1	59.3	
14. 先生は、宿題をよくみてる	1034(60.9)	84.1	73.0	67.5	62.3	52.7	***
6. 国語で、1時間に1人が1回以上発表する	925(54.3)	50.8	43.8	48.7	56.2	55.0	
13. 先生は、宿題をたくさん出す	835(48.9)	55.4	61.6	66.7	48.3	43.6	***
7. 書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	816(47.9)	68.8	58.0	56.4	46.0	44.7	***
12. 理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	798(46.7)	43.1	47.1	37.2	46.7	48.3	
16. 放課後に、先生がわからないところを教えてくれる	565(33.1)	56.1	37.7	48.1	32.1	28.9	***
4. 学級全員で話し合う授業	544(32.0)	41.5	33.6	35.1	30.5	32.3	

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

表5は、先ほどの16項目を主成分分析によって要約したものである。5成分が抽出されたが、成分1のみを採用することにした。成分1は、「10. わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる」、「8. 先生が算数や数学のプリントやドリルをみてる」などの主成分負荷量が多い。従って、成分1は「教師によるていねいな指導」とすることができる。

表6は、学級規模と成分1の「教師によるていねいな指導」との関係を示している。小学校、中学校ともに、規模が小さい「13-20人」学級において、「教師によるていねいな指導」がなされている。逆に、「36-40人」学級で、小中学校ともに、教師によるていねいな指導が難しくなる傾向がみられる。

表5 指導方法に関する主成分分析

授 業 内 容	成分1
	教師によるていねいな指導
10. わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる	0.6559
8. 先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てくれる	0.6360
7. 書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	0.6193
14. 先生は、宿題をよくみてる	0.6020
3. グループで話し合い授業	0.5255
4. 学級全員で話し合う授業	0.4753
9. 算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	0.4710
2. 先生が生徒によく質問し、生徒がよく発表する授業	0.4452
5. ドリルやプリントの問題をとく授業	0.4277
16. 放課後に、先生がわからないところを教えてくれる	0.4187
11. 理科の授業で、実験器具を使って生徒が実験する	0.3735
15. 朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	0.3175
6. 国語で、1時間に1人が1回以上発表する	0.3073
13. 先生は、宿題をたくさん出す	0.1030
1. 先生が1時間中説明し、生徒が聞いている授業	-0.0594
12. 理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	0.0424
固有値	3.2116
寄与率 (%)	20.073

注) 数値は主成分負荷量。

表6 学級規模と指導方法に関する関係

小 学 校				中 学 校			
学級規模	標本数	成分1教師によるていねいな指導		学級規模	標本数	成分1教師によるていねいな指導	
		平均値	2群間の比較 (5%水準)			平均値	2群間の比較 (5%水準)
	1535	0.291			1620	-0.276	
①12人以下	85	0.534		①13-20人	62	0.318	
②13-20人	199	0.592		②21-25人	133	-0.001	
③21-25人	246	0.474		③26-30人	74	-0.119	
④26-30人	395	0.255		④31-35人	802	-0.265	
⑤31-35人	317	0.315		⑤36-40人	549	-0.447	
⑥36-40人	293	-0.114					
F検定の結果		***		F検定の結果		***	

注) 数値は主成分得点の平均値

3. 学習と学校生活

(1) 児童生徒の授業態度

表7 aと表7 bには、小学校と中学校に分けて、授業態度に関わる13項目をあげ、児童生徒自身がどのように授業にかかわっているかを、「ある」と回答した割合が高い項目の順に示した。表7 aの小学校からみていく。小学校では、「12人以下」の学級で、「1. 授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている」「6. 学校の授業は楽しい」「4.

考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる」の項目において「ある」と回答した割合が高いことから、規模が小さい学級において、授業に積極的にかかわっていると見えそうである。一方、表7 bの中学校では、小学校よりも散らばりが見られるものの「13-20人」と「21-25人」学級で、授業への積極的な関わりがあることがわかる。小学校と中学校を比較した時、小学校の方が学級規模による授業態度の差が顕著である。

表7 a 小学校における児童の授業態度：「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

小学校 授業態度	全体	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
1. 授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	1435(86.4)	92.1	91.8	89.7	85.3	87.7	78.8	***
7. がんばれば、もっと良い成績がとれると思う	1418(86.0)	89.9	86.5	85.4	85.2	89.4	82.3	
13. 解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	1329(80.1)	78.7	83.1	82.4	80.4	78.6	77.9	
3. 授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	1168(70.7)	77.3	74.8	79.5	67.1	70.9	63.6	***
6. 学校の授業は楽しい	1166(70.7)	79.5	74.3	75.1	66.3	77.0	61.4	***
9. 授業中、ぼんやりとすることがある	994(60.5)	61.8	55.6	58.2	63.0	57.9	64.7	
4. 考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	869(52.4)	71.9	62.8	58.4	51.7	50.4	38.4	***
12. 授業中、授業と関係ないことをすることがある	829(50.4)	57.5	40.8	43.8	54.9	47.3	57.5	***
2. 授業中、進んで発表したり、質問したりする	831(50.2)	77.5	60.4	55.0	48.8	50.6	33.4	***
11. わたしは、勉強が好きの方だと思う	692(42.2)	47.2	43.9	48.5	41.3	46.4	30.9	***
8. 学校での成績は、学年の中でよい方だと思う	670(40.7)	47.2	43.5	40.2	42.2	40.3	36.0	
5. みんなの前で、自分の考えを説明する	644(39.0)	68.2	49.0	41.8	38.4	37.0	25.1	***
10. 授業を休んだり、遅刻したりすることがある	351(21.3)	24.1	13.1	16.9	23.5	20.5	27.5	**

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

表7 b 中学校における生徒の授業態度：「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

中学校 授業態度	全体	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
7. がんばれば、もっと良い成績がとれると思う	1476(86.2)	89.4	92.8	88.6	87.1	82.6	*
13. 解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	1441(84.0)	80.3	89.1	75.9	85.7	81.9	*
1. 授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	1432(83.6)	87.9	87.0	83.5	85.3	79.9	*
3. 授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	1300(76.0)	86.4	76.8	69.6	79.3	70.8	***
9. 授業中、ぼんやりとすることがある	1208(70.8)	68.8	80.4	63.3	69.3	71.8	*
6. 学校の授業は楽しい	969(56.6)	59.1	65.9	51.9	58.6	51.8	*
12. 授業中、授業と関係ないことをすることがある	956(56.5)	35.9	60.7	51.9	53.0	63.4	***
2. 授業中、進んで発表したり、質問したりする	713(41.6)	48.5	50.0	40.5	40.0	41.4	
4. 考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	623(36.3)	39.4	30.4	30.4	39.9	33.0	*
8. 学校での成績は、学年の中でよい方だと思う	451(26.3)	28.8	27.5	19.0	28.2	24.1	
5. みんなの前で、自分の考えを説明する	417(24.4)	42.4	29.7	19.0	25.3	20.5	***
10. 授業を休んだり、遅刻したりすることがある	359(21.0)	16.7	16.7	15.2	19.3	25.9	**
11. わたしは、勉強が好きの方だと思う	353(20.7)	15.2	20.4	16.5	21.3	21.2	

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

表8は、授業態度に関する因子分析の結果である。先の13項目を因子分析にかけたところ、因子1から順に「授業への集中」「肯定的自己評価」「向

上心」「発表積極性」の4因子を抽出できた。この4因子と学級規模との関係をみたのが、表9 aと表9 bである。表9 aの小学校では、因子1の

「授業への集中」は「13-20人」学級で優れている。因子2の「肯定的自己評価」、因子3の「向上心」、因子4の「発表積極性」は、「12人以下」の学級で優れている。逆に、4因子とも低いのは、学級規模が最も大きい「36-40人」学級である。表9bの中学校については、学級規模と授業態度には、小学校ほどの一貫性はない。太字で示したように、「授業への集中」「発表積極性」は「13-

20人」で優れており、「向上心」は「21-25人」の学級で優れている。逆に、「授業への集中」は規模の最も大きい「36-40人」学級で低く、「向上心」と「発表積極性」は、「26-30人」学級で低いという結果が出ている。小学校と中学校を比較する時、児童の方が、授業態度が優れており、肯定的に自己評価しているという特徴も見いだされる。

表8 授業態度に関する因子分析

変数名	因子1	因子2	因子3	因子4
	授業への集中	肯定的自己評価	向上心	発表積極性
12. 授業中、授業と関係ないことをすることがある	-0.5093	-0.0226	0.0359	0.2063
9. 授業中、ぼんやりとすることがある	-0.4583	-0.1273	0.1462	0.1337
1. 授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	0.4378	0.2034	0.3443	0.0132
6. 学校の授業は楽しい	0.2602	0.5458	0.2670	0.0694
8. 学校での成績は、学年の中でよい方だと思う	0.2681	0.3676	0.2347	0.2254
13. 解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	0.0658	0.1147	0.4631	0.0923
7. がんばれば、もっと良い成績がとれると思う	0.1407	0.3093	0.4394	0.1098
3. 授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	0.2425	0.1162	0.4244	0.0716
5. みんなの前で、自分の考えを説明する	0.3225	0.2381	0.1600	0.6494
2. 授業中、進んで発表したり、質問したりする	0.3215	0.2073	0.2113	0.6154
4. 考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	0.2870	0.2451	0.2980	0.2340
10. 授業を休んだり、遅刻したりすることがある	-0.2952	0.0315	-0.1054	0.0728
11. わたしは、勉強が好きな方だと思う	0.2958	0.6017	0.2351	0.1301
因子負荷量の2乗和	1.3480	1.1362	1.0806	1.0193
因子の寄与率 (%)	10.3691	8.7402	8.3122	7.8410
累積寄与率 (%)	10.3691	19.1092	27.4214	35.2624

注) 数値は、回転後の因子負荷量。バリマックス法。規準化。

表9a 小学校における学級規模と授業態度に関する因子の関係

小学校		因子1 授業への集中		因子2 肯定的自己評価		因子3 向上心		因子4 発表積極性	
学級規模	標本数	平均値	2群間の比較 (5%水準)	平均値	2群間の比較 (5%水準)	平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較 (5%水準)
	1547	0.121		0.198		-0.016		0.076	
①12人以下	85	0.256		0.306		0.080		0.552	
②13-20人	198	0.364		0.246		0.038		0.179	
③21-25人	242	0.246		0.239		0.046		0.104	
④26-30人	399	0.044		0.156		-0.018		0.087	
⑤31-35人	324	0.173		0.294		0.001		0.037	
⑥36-40人	299	-0.135		0.055		-0.143		-0.123	
F検定の結果		***		***		**		***	

注) 数値は因子得点の平均値

表9 b 中学校における学級規模と授業態度に関する因子の関係

中学校		因子1 授業への集中		因子2 肯定的自己評価		因子3 向上心		因子4 発表積極性	
学級規模	標本数	平均値	2群間の比較 (5%水準)	平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較
	1638	-0.114		-0.187		0.015		-0.072	
①13-20人	63	0.162]]	-0.259		0.079]]	0.127	
②21-25人	135	-0.141		-0.099		0.163		0.063	
③26-30人	77	-0.018]]	-0.219		-0.144]]	-0.144	
④31-35人	805	-0.058		-0.180		0.060		-0.107	
⑤36-40人	558	-0.233		-0.207		-0.071		-0.065	
F検定の結果		***		ns		***		*	

注) 数値は因子得点の平均値

(2) 学級風土と教師への信頼

表10 a と表10 b には、小学校と中学校に分けて、学級風土（項目1～14）と教師への信頼（項目15～21）に関する項目をあげ、「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」と回答した児童生徒の合計%を示した。表10 a の小学校の場合は、学級風土に関する項目については、「12人以下」の学級で、児童の学級への評価が高い。教師への信頼に関わる項目については、「13-20人」学級の児童の評価が高い。一方、表9 b の中学校の場合は、「13-20人」学級で学級に対する評価が高く、同様に教師に対する評価も、この規模の学級で高い。

表11は、学級風土に関わる14項目のうち、三次市の児童生徒が回答していない項目6と8を除いた12項目を用いて、因子分析を行った結果である。2因子を抽出することができた。因子1は「クラスの秩序」であり、因子2は「クラスの凝集性」を示している。

この2因子と学級規模との関係を見たのが、表12 a と表12 b である。表12 a の小学校について言えば、「クラスに秩序」があり「クラスの凝集性」が高いのは、「12人以下」および「13-20人」学級で、低いのは「36-40人」学級である。表12 b の中学校では、「クラスの秩序」と「クラスの凝集性」が高いのは、「13-20人」学級である。逆に、「クラスの秩序」が低いのは「36-40人」学級で、「クラスの凝集性」が低いのは「26-30人」学級である。中学校の「26-30人」学級では、クラスの秩序は高いが凝集性は低いという結果が出ている。これには、この学級規模の回答者が77名と少

なく、特定の学級の影響が出ている可能性がある。

表13は、教師への信頼に関する項目を主成分分析によって要約し、成分を抽出したものである。その結果、一つの成分を抽出することができた。成分名は、「教師の信頼度」である。表14には、学級規模別にみた児童生徒の教師への信頼度を示した。小学校では、教師への信頼度は、「13-20人」学級で高く、逆に「36-40人」学級で低い。一方、中学校では、教師への信頼度が高いのは、小学校と同様「13-20人」学級だが、低いのは、「26-30人」学級である。

児童生徒調査から、小学校では、学級規模が大きくなるに従って授業や学級運営が難しくなる傾向が見られる。中学校においても、この傾向は見いだされるものの、標本数の影響もあろうが、必ずしも規模が大きい学級ほど、授業や学級の運営がうまくいかないとは言えない。むしろ、教師への信頼度とクラスの凝集性が関連があり、教師への信頼度が低いと小規模学級でも授業や学級経営が困難になる可能性がある。以上が、学級規模と授業に関して明らかになった点である。

表10a 小学校における学級風土と教師への信頼：「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

学級風土と教師への信頼	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
1. 私のクラスは、集団としてのまとまりがある	79.8	75.8	76.8	68.5	73.1	51.1	***
2. どの子ども、授業をおおよそ理解している	89.8	81.6	80.8	76.8	75.7	67.2	***
3. チャイムが鳴ったらどの子ども席に座って先生を待っている	64.0	59.4	47.3	44.0	25.1	22.7	***
4. 授業中、どの子ども先生の話をよく聞いている	83.0	70.4	62.5	59.9	63.5	36.5	***
5. 授業では、いろいろな人から意見がでる	86.5	77.8	70.9	70.3	76.4	59.8	***
6. 先生の言うことをきかない子どもがクラスにいる	22.2	53.6	45.6	64.6	65.3	80.8	***
7. 私のクラスでは何でも言い合える雰囲気がある	69.7	53.9	62.7	57.3	66.8	45.1	***
8. クラスに遅刻したり学校を休む子どもがいる	77.8	44.0	48.0	71.1	79.9	72.2	***
9. どの子ども運動会などの行事に熱心に参加している	88.8	90.7	88.2	88.7	87.9	85.1	
10. どの子ども児童会や生徒会の活動に進んで参加している	86.5	70.9	75.4	58.5	76.9	55.2	***
11. どの子ども学級の委員や係活動を進んでやっている	85.4	78.3	77.2	63.8	80.1	54.3	***
12. どの子どもクラブ活動に参加している	94.2	94.2	91.6	91.8	87.9	85.9	**
13. どの子ども掃除を一生懸命している	80.9	72.1	73.2	61.5	64.0	47.5	***
14. どの子ども学校のきまりを守っている	76.4	73.3	66.5	49.2	51.9	42.5	***
15. 先生は私の学習状況をよく分かってきている	78.7	82.4	75.6	72.4	75.1	57.9	***
16. 先生は私の心配事や悩みを理解してくれている	59.6	64.6	55.9	56.2	56.4	36.2	***
17. 先生は私の家庭や家庭外での生活をよく分かってきている	52.8	53.9	52.7	50.6	51.4	34.1	***
18. 先生は私たちの話をよく聞いてくれている	85.4	87.2	79.0	79.4	81.1	63.6	***
19. 先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	75.3	75.8	67.9	66.4	76.0	53.0	***
20. 先生は私の親とよく知り合っている	68.5	61.2	47.5	49.2	39.5	36.2	***
21. どの子ども先生の言うことをよくきいている	81.7	73.1	58.1	63.9	66.0	-	*

注) 項目6と8は三次市の児童の回答が欠如。項目21は三次市の児童のみ回答。 χ^2 検定。

表10b 中学校における学級風土と教師への信頼：「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

学級風土と教師への信頼	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
1. 私のクラスは、集団としてのまとまりがある	78.5	68.8	63.6	70.6	66.1	
2. どの子ども、授業をおおよそ理解している	64.6	52.9	57.1	55.0	45.8	**
3. チャイムが鳴ったらどの子ども席に座って先生を待っている	63.1	42.8	90.9	49.5	32.2	***
4. 授業中、どの子ども先生の話をよく聞いている	69.2	55.8	55.8	49.3	35.3	***
5. 授業では、いろいろな人から意見がでる	70.8	53.6	39.0	49.7	52.5	**
6. 先生の言うことをきかない子どもがクラスにいる	-	57.6	-	63.0	72.9	***
7. 私のクラスでは何でも言い合える雰囲気がある	65.6	43.5	39.0	46.1	46.3	*
8. クラスに遅刻したり学校を休む子どもがいる	-	67.5	-	83.2	83.8	***
9. どの子ども運動会などの行事に熱心に参加している	87.7	91.2	61.0	79.0	70.6	***
10. どの子ども児童会や生徒会の活動に進んで参加している	72.3	70.1	55.8	57.4	50.0	***
11. どの子ども学級の委員や係活動を進んでやっている	64.6	66.7	63.2	61.3	57.3	
12. どの子どもクラブ活動に参加している	84.6	92.0	83.1	76.8	75.0	***
13. どの子ども掃除を一生懸命している	49.2	44.2	47.4	50.8	39.0	***
14. どの子ども学校のきまりを守っている	61.5	62.3	49.4	53.8	37.4	***
15. 先生は私の学習状況をよく分かってきている	75.4	57.2	52.6	59.0	50.2	***
16. 先生は私の心配事や悩みを理解してくれている	50.0	45.7	21.8	38.8	36.4	**
17. 先生は私の家庭や家庭外での生活をよく分かってきている	41.5	23.9	19.5	29.7	25.6	*
18. 先生は私たちの話をよく聞いてくれている	78.5	60.9	49.4	63.5	57.4	**
19. 先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	63.1	59.6	28.6	55.9	46.4	***
20. 先生は私の親とよく知り合っている	46.2	33.3	35.1	28.5	26.3	**
21. どの子ども先生の言うことをよくきいている	70.8	36.8	55.8	64.2	45.4	***

注) 項目6と8は三次市の生徒の回答が欠如。項目21は三次市の生徒のみ回答。 χ^2 検定。

表11 学級風土に関する因子分析

変数名	因子1	因子2
	クラスの秩序	クラスの凝集性
4. 授業中、どの子ども先生の話をよく聞いている	0.6231	0.2389
14. どの子ども学校のきまりを守っている	0.6128	0.0874
13. どの子ども掃除を一生懸命している	0.5752	0.1891
3. チャイムが鳴ったらどの子ども席に座って先生を待っている	0.5473	0.0885
2. どの子ども、授業をおおよそ理解している	0.4925	0.3329
7. 私のクラスでは何でも言い合える雰囲気がある	0.2743	0.5310
9. どの子ども運動会などの行事に熱心に参加している	0.2220	0.4599
1. 私のクラスは、集団としてのまとまりがある	0.3398	0.4380
5. 授業では、いろいろな人から意見がでる	0.3192	0.4249
10. どの子ども児童会や生徒会の活動に進んで参加している	0.2438	0.4580
11. どの子ども学級の委員や係活動を進んでやっている	0.3159	0.4212
12. どの子どもクラブ活動に参加している	0.2420	0.2223
因子負荷量の2乗和	2.1963	1.5216
因子の寄与率 (%)	18.3025	12.6802
累積寄与率 (%)	18.3025	30.9827

注) 数値は回転後の因子負荷量。バリマック法による。規準化。

表12a 小学校における学級規模と学級風土に関する因子の関係

学級規模	標本数 1519	因子1 クラスの秩序		因子2 クラスの凝集性	
		平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較
		0.107	(5%水準)	0.169	(5%水準)
①12人以下	85	0.689		0.427	
②13-20人	195	0.483		0.169	
③21-25人	232	0.277		0.168	
④26-30人	390	0.102		0.143	
⑤31-35人	326	0.034		0.360	
⑥36-40人	291	-0.363		-0.083	
F検定の結果		***		***	

注) 数値は因子得点の平均値。

表12b 中学校における学級規模と学級風土に関する因子の関係

学級規模	標本数 1646	因子1 クラスの秩序		因子2 クラスの凝集性	
		平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較
		-0.099	(5%水準)	-0.156	(5%水準)
①13-20人	64	0.277		0.193	
②21-25人	135	-0.037		-0.034	
③26-30人	76	0.218		-0.467	
④31-35人	818	-0.024		-0.169	
⑤36-40人	553	-0.312		-0.165	
F検定の結果		***		***	

注) 数値は因子得点の平均値。

表13 教師への信頼に関する主成分分析

変数名	成分1 教師への信頼度
15. 先生は私の学習状況をよく分かっている	0.7673
16. 先生は私の心配事や悩みを理解している	0.8171
17. 先生は私の家庭や家庭外での生活をよく分かっている	0.8066
18. 先生は私たちの話をよく聞いてくれている	0.8013
19. 先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	0.7654
20. 先生は私の親とよく知り合っている	0.6355
固有値	3.5386
寄与率 (%)	58.977
累積寄与率 (%)	58.977

表14 学級規模別にみた教師への信頼度

小学校				中学校			
学級規模	標本数 1597	成分1 教師への信頼度		学級規模	標本数 1662	成分1 教師への信頼度	
		平均値	2群間の比較 (5%水準)			平均値	2群間の比較 (5%水準)
		-0.261				0.272	
①12人以下	89	0.514		①13-20人	64	0.190	
②13-20人	198	0.570		②21-25人	136	-0.181	
③21-25人	250	0.360		③26-30人	76	-0.516	
④26-30人	414	0.307		④31-35人	821	-0.207	
⑤31-35人	338	0.349		⑤36-40人	565	-0.376	
⑥36-40人	308	-0.193					
F検定の結果		***		F検定の結果		***	

注) 数値は主成分得点の平均値

4. 学級規模と学力

(1) 学級規模と学力

次に、学級規模と学力の関係を検討する。調査票の最後に、国語と算数・数学のテストを設け、児童生徒に解答するよう求めた。表15 a と表15 b は、テスト結果を学力偏差値に換算し、学級規模別に示したものである。表15 a、すなわち小学校

においては、算数と国語を合わせた学力偏差値は、学級規模が小さいほど得点が高い。算数と国語に分けてみた時も、ほぼこの傾向が認められる。表15 b の中学校では、数学と国語を合わせた学力偏差値は「21-25人」学級で最も高く、逆に最も低いのは、「36-40人」学級であった。小中学校ともに、学級規模が小さい方が学力が高いようである。

表15 a 小学校における学級規模別にみた学力

小学校		学力偏差値 (算数+国語)		算数		国語	
学級規模	標本数	平均値	2群間の比較 (5%水準)	平均値	2群間の比較 (5%水準)	平均値	2群間の比較 (5%水準)
全体	1664	100.0		50.0		50.0	
①12人以下	89	106.9		53.4		53.5	
②13-20人	208	105.7		53.4		52.2	
③21-25人	263	102.3		50.6		51.7	
④26-30人	431	98.2		49.4		48.8	
⑤31-35人	352	97.6		47.9		49.7	
⑥36-40人	321	97.6		49.5		48.1	
F検定の結果		***		***		***	

によるていねいな指導がなされていると児童生徒が判断するグループの方が学力が高い。特に中学校では、「31-35人」学級と「36-40人」学級で、

学力の違いが顕著であることから、教師によるていねいな指導は、規模の大きい学級で効果が大きいと考えられる。

表17a 小学校における指導方法と学力

小学校 成分1	グループ	人数 1534	学力偏差値 の平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
教師によるていねいな指導	上位群(+)	995	102.8***	108.7*	107.5**	103.5	102.7***	98.1	101.6***
	下位群(-)	539	97.3	102.8	101.1	100.3	95.5	98.6	94.9

注) グループは、成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

表17b 中学校における指導方法と学力

中学校 成分1	グループ	人数 1618	学力偏差値 の平均値	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
教師によるていねいな指導	上位群(+)	662	103.3***	105.3	108.0	106.3	103.2***	100.5*
	下位群(-)	956	98.1	104.7	103.9	101.4	97.4	97.5

注) グループは、成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

3) 授業態度と学力

表18aと表18bには、小学校と中学校に分けて、授業態度と学力の関係を学級規模別に示した。表8で見たように、授業態度を構成する因子として「授業への集中」「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」が存在した。小学校、中学校ともに、「授業への集中」「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」の上位群の方が学力が高い。

これに、学級規模を重ね合わせた時、因子1の「授業への集中」は、小学校、中学校ともに、規模が大きい学級で、学力に有効に作用しているこ

とがわかる。因子2の「自己肯定感」は、中学校において、学級規模が大きくなると学力に有効に作用する傾向がある。因子3の「向上心」は、小学校、中学校ともにいずれの学級規模においても、向上心があるグループの方が学力が高い。向上心は学力を伸ばす前提条件と考えられる。因子4の「発表積極性」は、小学校では「13-20人」「21-25人」規模で、中学校では「31-35人」規模で、発表積極性上位群の方が学力が高いが、学級規模との関連性は明確でない。

表18a 小学校における授業態度と学力

小学校 因子名	グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
因子1 授業への集中	上位群(+)	824	103.9***	107.8	106.9	105.4**	102.4***	101.7***	102.9***
	下位群(-)	723	96.9	104.8	104.0	99.8	95.8	93.4	95.6
因子2 肯定的自己評価	上位群(+)	935	102.1***	107.6	105.8	104.5	101.0*	99.0	100.2
	下位群(-)	612	98.5	104.5	106.2	101.0	96.0	96.1	96.8
因子3 向上心	上位群(+)	834	104.2***	109.0*	107.5*	104.9*	104.6***	101.6***	102.1**
	下位群(-)	713	96.5	103.6	104.0	100.8	92.2	93.2	95.7
因子4 発表積極性	上位群(+)	758	102.1***	107.8	107.7*	105.7**	99.2	98.6	99.2
	下位群(-)	789	99.2	102.1	103.7	100.8	98.6	97.4	98.2

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

表18b 中学校における授業態度と学力

中学校 因子名		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
因子1	授業への 集中	上位群(+)	722	103.5***	105.4	110.0*	103.7	103.1***	101.9***
		下位群(-)	916	98.1	105.0	103.1	104.5	97.4	96.8
因子2	肯定的自 己評価	上位群(+)	591	104.6***	111.3*	108.7	112.1**	103.2***	103.9***
		下位群(-)	1047	98.2	102.2	104.2	101.4	98.4	95.6
因子3	向上心	上位群(+)	895	105.1***	110.3**	108.6*	109.9**	104.0***	104.5***
		下位群(-)	743	95.0	96.4	102.1	98.6	95.1	92.9
因子4	発表積極 性	上位群(+)	694	102.7***	107.1	108.5	105.5	103.0***	99.7
		下位群(-)	944	98.9	102.7	103.6	103.2	98.3	97.9

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

4) 学級風土と学力

表19aと表19bは、小学校と中学校における学級風土と学力の関係を学級規模別に示したものである。表19aから明らかのように、小学校においては、クラスに秩序があり、クラスの凝集性が高いと判断する児童の学力が高い。特に、小学校に

おいては、クラスの凝集性において「36-40人」学級で有意な差があることから、規模の大きい学級で、クラスの凝集性が学力に影響を与えると考えられる。一方、中学校においては、クラスの秩序と学力、クラスの凝集性と学力との間に有意差は認められなかった。

表19a 小学校における学級風土と学力

小学校 因子名		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
因子1	クラスの 秩序	上位群(+)	866	102.3***	107.3	107.3*	104.0	100.0	99.0	99.9
		下位群(-)	653	98.4	102.2	102.1	100.8	97.6	98.2	96.8
因子2	クラスの 凝集性	上位群(+)	906	102.1***	104.1	106.2	97.5	98.7*	96.0	99.5**
		下位群(-)	613	98.4	103.3	104.2	94.8	93.4	95.1	90.8

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

表19b 中学校における学級風土と学力

中学校 因子名		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
因子1	クラスの 秩序	上位群(+)	745	100.3	103.4	103.4	107.1*	100.4	96.6
		下位群(-)	900	100.3	104.4	108.7	97.5	99.8	99.3
因子2	クラスの 凝集性	上位群(+)	654	99.9	103.7	106.1	102.6	99.9	97.3
		下位群(-)	992	100.7	104.6	106.2	104.0	100.2	99.2

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

5) 教師への信頼度と学力

表20aと表20bは、小学校と中学校における教師への信頼度と学力の関係を学級規模別に示した

ものである。小学校においては、教師への信頼度が高い児童の方が、学力が高いという結果が出ている。ただ、学級規模との関連は明確でない。一方、中学校においては、教師への信頼度と学力と

表20a 小学校における教師への信頼度と学力

小学校 成分名		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
成分1	教師への信 頼度	上位群(+)	971	101.6***	107.3	106.8	102.7	100.4*	97.6	100.6
		下位群(-)	626	98.1	105.8	103.7	101.1	95.7	97.3	96.7

注) グループは、主成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

表20b 中学校における教師への信頼度と学力

中学校 成分名		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12人	13-20人	21-25人	31-35人	36-40人
成分1	教師への信 頼度	上位群(+)	623	100.8	103.6	105.1	102.2	100.9	98.8
		下位群(-)	1039	99.8	104.8	106.8	104.5	99.1	98.0

注) グループは、主成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

の間に有意差は認められなかった。

5. まとめ

最後に、学級規模が授業と学力に与える影響についての分析から明らかになった点をまとめておきたい。まず、学級規模と授業の関係である。

第一に、学級規模と指導方法についてである。小中学校ともに、規模が小さい学級(ここでは「12以下」学級と「13-20人」学級をさす)において、「教師によるていねいな指導」がなされていた。

第二に、学級規模と児童生徒の授業態度についてである。授業態度に関する因子として、「授業への集中」「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」の4因子が抽出された。小学校では、規模が小さい学級において、児童が授業に積極的にかかわっていた。逆に、規模が最も大きい「36-40人」学級で、授業への関与の程度が低くなっていた。

中学校では、「13-20人」学級と「21-25人」学級で授業への関与が高くなっていた。一方、授業への関与が低いのは、「26-30人」学級と「36-40人」学級であった。

第三に、学級規模と学級風土や教師への信頼度との関係についてである。小学校では、規模が小さい学級において、「クラスの秩序」、「クラスの凝集性」、「教師への信頼度」が高いという結果がでた。一方、中学校では「13-20人」学級で良好であり、「26-30人」学級と「36-40人」学級で「ク

ラスの凝集性」と「教師への信頼度」が低くなっていた。

以上のことから、概して小学校は、学級規模が小さい方が充実した授業と学級経営がなされていると言える。中学校は、学級規模と授業の関係は小学校ほど直線的な関係ではなく、「13-20人」学級と「21-25人」学級において良好であり、「26-30人」学級と「36-40人」学級において困難さを抱えているという結果である。

次に、学級規模と学力の関係についてである。

小学校においては、小規模学級の方が学力が高いという結果がでている。中学校においても同様の傾向はあるが、学力面で最も優れているのは「21-25人」学級であった。

授業方法と学力と学級規模の関係をみた時、次の点を指摘できる。第一に、TTは、小中学校ともに、学級規模の大きい「31-35人」学級と「36-40人」学級で有効である。第二に、授業において、教師によるていねいな指導がなされているグループの方が学力が高い。特に、中学校では、教師によるていねいな指導の効果が規模が大きい学級において現れやすい傾向が見られる。第三に、授業態度の因子として抽出された4つの因子、すなわち、「授業への集中」「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」の上位群の方が学力が高い。小中学校ともに、いずれの学級規模においても「向上心」の高い児童生徒の学力が高く、「授業への集中」は、学級規模が大きいほど学力に有効に作

用するという結果が出ている。

ただ、以上の結果は、学級規模と授業、学級規模と学力という2変数間の分析結果であるため、厳密には学級規模と他の諸変数とを比較し、学級規模の影響力の多寡を今後検討する必要があることを述べて、本稿を閉じることにしたい。

注

1) 各道県別のTT及び少人数学習の実施率は次の通りである。TT(小,中):北海道(89.1%,94.7%),広島県(77.1%,89.3%),島根県(94.2%,67.1%),沖縄県(46.3%,85.1%)。少人数学習(小,中):北海道(11.2%,59.0%),広島県(42.5%,90.4%),島根県(98.0%,42.9%),沖縄県(97.1%,93.0%)。

各道県別の学力偏差値(小,中)は次の通りである。北海道(99.2,100.5),広島県(104.7,102.3),島根県(98.6,103.3),沖縄県(89.6,95.4)。

参考文献

- Glass, G. V., Cahen, L. S., Smith, M.L. & Filby, N.N., 1982, *School Class Size: Research and Policy*. Beverly Hills, CA: SAGE
- U.S. Department of Education, 1998, *Reducing Class Size: What Do We Know?*
- 国立教育政策研究所(研究代表者:高浦勝義), 2002, 「学級規模に関する調査研究」, 『国立教育政策研究所紀要』第131集。
- 加藤幸次, 1990, 「学習集団の規模とその教育効果についての研究:20人,30人,40人学級の比較研究」, 『科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書』。
- 桑原敏明編, 2002, 『学級編成に関する総合的研究』多賀出版。
- 下村哲夫編, 1996, 『少子時代の学校』ぎょうせい。
- 杉江修治, 1996, 「学級規模と教育効果」『中京大学教養論叢』第37巻第1号, pp.149-190。
- 須田康之, 2005, 「学校規模別にみた日常的教育活動の実際-児童の学校生活意識に着目して-」『北海道教育大学紀要教育科学編』第56巻第1号, pp.31-45。
- 須田康之, 2007, 「校長評価からみた教育目標充実度」『北海道教育大学紀要教育科学編』第57巻第2号, pp.41-54。
- 総務庁行政監察局編, 1992, 『小・中学校を巡る教育行政の現状と課題』大蔵省印刷局。
- 日本教育大学協会第二常置委員会, 2001, 『学級規模の教

育効果に関する調査報告書』。

北海道教育大学釧路校広尾町学校適正規模等研究調査委員会, 2003, 『広尾町学校適正規模等研究調査委員会報告書』。

水野 考・藤井宣彰・田中春彦・山崎博敏, 2005, 「学校規模に隠れた学級規模の効果-公立小・中学校の全国校長調査を中心に-」『広島大学大学院教育学研究科紀要第三部(教育人間科学関係領域)』第54号, pp.11-18。

山崎博敏, 2005, 「公立小中学校の学校規模の法制と現実の諸類型」『広島大学大学院教育学研究科紀要第三部(教育人間科学関係領域)』第54号, pp.1-10。

若林敬子, 1999, 『学校統廃合の社会学的研究』御茶の水書房。

(付記)本稿は, 2006年9月22日, 日本教育社会学会第58回大会(大阪教育大学)での報告, 「学力に及ぼす授業方法・学級規模・家庭環境の影響」(山崎博敏・須田康之・西本裕輝・高旗浩志・藤井宣彰・水野考)の一部である。なお, 本研究は, 科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)), 研究代表者:山崎博敏「学級規模が授業と学校生活に与える影響に関する比較社会学的研究」(研究課題番号16330165)), H16-18)の交付を受けた。

(須田 康之 北海道教育大学旭川校教授)

(水野 考 広島大学大学院教育学研究科博士課程大学院生)

(藤井 宣彰 広島大学大学院教育学研究科博士課程大学院生)

(西本 裕輝 琉球大学大学教育センター准教授)

(高旗 浩志 島根大学教育学部准教授)